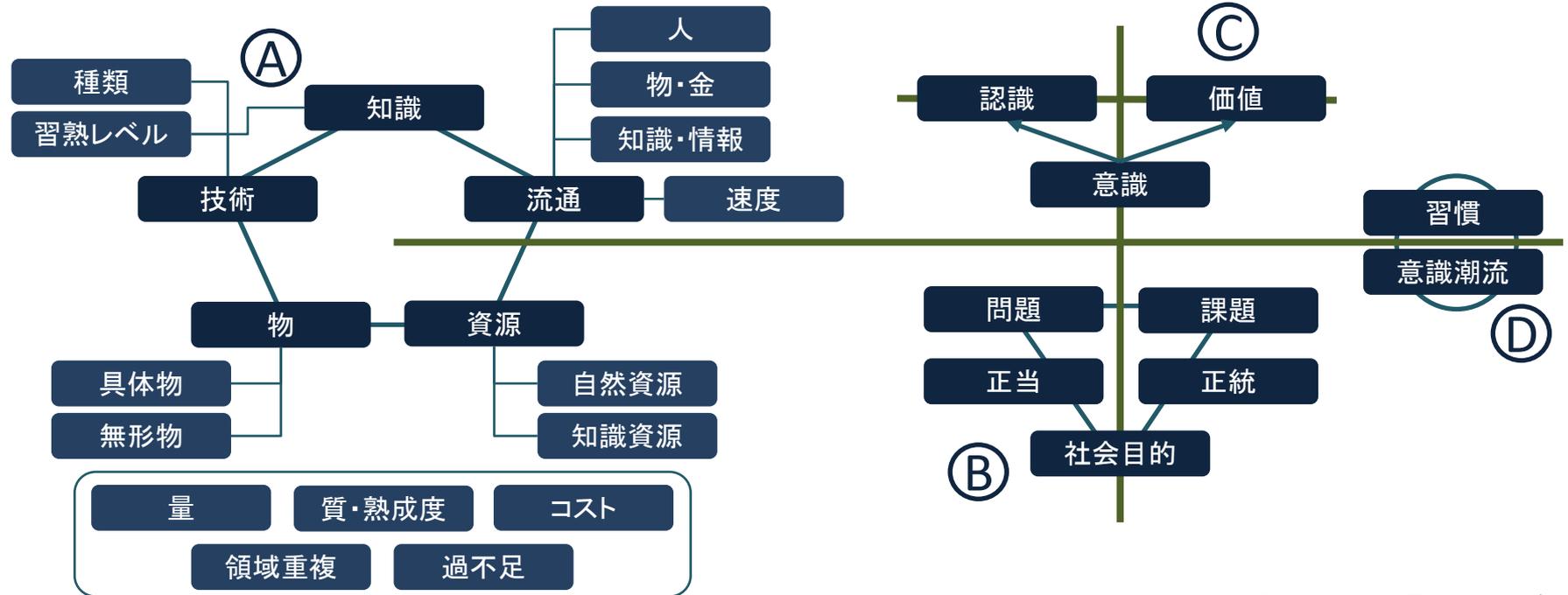


# 社会状況を測定する

ただ、観察しているだけでは、変化は見つからない。視点を定めてDATAを収集しよう。  
情報が情報になるのは、DATAが手元に来て、意味を持ったときである。

社会で起こっている事柄、現れた事柄がすべて取り出され、分析できれば、想像もしなかった事柄が分かるかもしれない。インターネットができ、大半のデータは現れて出ているから、分析できなくはない。文章データの分析ツールはすでに存在し、数値分析は十分に研究されている。社会の状況を把握するための道具はそろっている。どのように活用し、経済効果、社会進化に如何なる影響があるかが論理的に成立すれば、一気に分析は加速されるだろう。



データは大きく、A~Dの4つに分類される。Aに表した5つの事柄は、現代社会の資産である。知識、技術、物、資源、流通の5つについて、細部にわたり列記され、互いの関係が把握されれば、社会の要素は算出される。

Aは、一つの組織をとらえても、組織機能が表される。一つの組織とBの関係が明らかにされれば、組織機能を高められる。Aの機能はBによって影響を受ける。通常は一組織としてABを観察している。

正統性は、地域のDによって、地域のBが確定する。世界中のDのデータが集められて、分析され、統合したとしたら如何なる解が現れるのか、興味深い。Aの流通速度で、各地域のDが変化し始めているのは確かであるし、各地域の社会目的が影響されている。Aの流通速度がCの認識に影響を与えている。Cの意識がBの問題と課題を掘り起し、Dをも変え、Aに影響を与えている。分析は、A~Dを個別に行い、互いの関連を求めていけば、状態把握も含め、活動の方向性が現れてくるだろう。